

国際交流基金助成事業報告書

大阪薬科大学 薬学部薬学科4年次生 葛村 愛弓

この度、私は国際交流基金の助成を受けて、海外の医療制度の学習の目的で、平成26年8月3日から8月11日までの期間、カナダのブリティッシュコロンビア州バンクーバーを訪問しました。滞在期間中は昼に様々な医療機関を訪問し夜に医療通訳入門プログラムを受講し、さらにホームステイをすることでカナダの医療制度だけでなく語学・文化・人間関係を学ぶことができました。

<1日目>

昼から Mainland Clinic にてクリニック内の見学をし、またそこで実際の診察風景を見学させて頂きました。

カナダでは、日本の様に患者が最初に自らどの病院のどの科に行くのかを選択するのではなく、どの様な病状・症状でも通常最初に掛かりつけ医であるファミリードクターの診察を受けます。そこから、専門医に受診希望者はファミリードクターから紹介書を書いてもらいます。緊急時以外の病院では、直接診療申し込みは原則的に困難です。緊急病院でさえ、相当長い待ち時間が必要となります。また、カナダの医療制度はメディケアと呼ばれる国民皆保険制度を採用しており、主な医療は患者の自己負担が一切なく、全て税財源で公的に負担しています。今回訪れた Mainland Clinic は、海外旅行保険加入者の方々のファミリードクターとして診察を行っています。なので、海外旅行加入者の方であれば、キャッシュレス診察・治療・医薬代金の立替、そして常に日本人の医療通訳者が在席しているなどのサービスが受けられます。



<Mainland Clinic 受付>



<Mainland Clinic 外観 受講者と共に>

その後、shoppers というカナダでは有名なチェーン店のドラッグストアを訪問しました。また、そこでは処方箋受付もしていて常に薬剤師が在席しています。基本的にカナダの薬の箱には英語とフランス語で薬の説明が書かれています。また、薬の色や箱の色が赤や青の様にカラフルな色が多く一見サプリメントの様でした。



<胃腸薬コーナー>



<制酸剤・カルシウム補給の TUMS>

< 2 日目 >

この日は、医療通訳者である Chifuyu さんと共に FALSE CREEK HEALTHCARE という私立病院を訪れました。ここは主に整形外科であり MRI・CT Scan・Ultrasound を行うことができます。この Doctor は白衣など着ず患者さんとの距離を小さくして親しみやすさを作っていました。また、Patient・Doctor・Pharmacist・manager が完全に平等でお互いが助け合っているのが身に染みてわかり、これがまだ完全に実現できてない日本の医療にとっての未来像だと言っておられました。



<病院を案内してくださった Dr.Mendy>

< 3 日目 >

この日は最初に総合病院の **St.Paul's Hospital** を訪れました。ここは、外来・緊急外来・診療科・OT・病棟があり血液検査場・レントゲン検査場もあります。この日は様々な症状を持った緊急外来の患者さんがたくさん来られており、待ち時間も大変長いようでした。医療通訳者の **chifuyu** さんによると手術が必要な場合でも手術が半年後に予定されたり、手術予定日になっても緊急の患者が入ると手術が後回しになったりすることもよくあるようです。しかし平等を重んじるカナダ人にとっては、このようなことに現在のところ不満や政治課題にはなっていないようです。

そして次に、**PHARMASAVE** という調剤薬局を訪れました。ここでは薬剤師さんに質問できる時間があり大変貴重なお話を聞くことができました。ここにおられた薬剤師さんはイギリス出身の方で、イギリスで薬剤師の資格を取得してからカナダで働き始めたそうです。イギリスで薬剤師の資格を取るにはまず3年大学に通って2年専門的なことを学ぶそうです。なので、日本では薬剤師の資格を取るには6年かかると言うとても驚いておられました。また、カナダの薬剤師の社会的地位はとても高く、薬局で薬剤師に病状を伝えて病院に行った方がいいか判断してもらう患者さんが多いそうです。このことで、**Doctor** の手助けが出来ていると言っておられました。

また、日本では薬剤師の判断だけでは決して処方箋を書き換えることは出来ませんが、カナダではそんなことは決してなく、カナダのある州では簡単な薬だと薬剤師が処方箋を書くことができるそうです。このことからカナダの医療人は、皆が平等でお互いに本当に助け合っているのがよくわかり、ここが日本に足りていないと痛感しました。



<Queen Elizabeth Park>



<都会のすぐ隣にある雄大な Stanley Park>

<4日目>

この日は最初に、COAST MEDICAL という日本人通訳者がおられる病院を訪れました。ここは Mainland Clinic 同様、日本で海外旅行保険に加入された方は診察代・医薬代金の立替・医療通訳がキャッシュレスで利用できます。Mainland Clinic と違うところは、全て電子カルテで処方箋も電子であるという点です。なので、どの患者さんがいつ来られてどのタイミングで診察に入られたかも全てパソコンで知ることができるので、すごく便利だと思いました。また日本人患者専用の診察室もあり、そこには日本の雑誌が置いてあり落ち着いた空間になっておりました。

その次に、昨日訪れた St.Paul's Hospital で行われる産婦人科ツアーに参加させて頂きました。カナダでは妊婦さんが入院することは数少なく、たいていは生まれる直前に来院し当日で帰宅するそうです。しかし、この産科は入院の施設が充実しており一室にトイレとバスルームが付いてある個室でした。また、たくさんの方が見舞いに来られるように部屋はとても広かったです。また、この産科は無関係な人が入ってこられないように完全に鍵がかかっていました。また、カナダでは同性結婚が認められており今回の産科ツアーでもたくさんの同性愛者が参加されていました。私がバンクーバーに到着した日にはバンクーバーで最大級のゲイパレード Vancouver Pride Parade が行われていました。日本ではこの様な事はあまりオープンには言いづらいますが、もっと社会的に認められると日本の医療の視野も広がるのではないかと思います。



<ホームステイ先の近くの風景>



<Downtownの近くの公園>

<海外医療研修を終えて>

今回の研修を通して、カナダと日本の医療の違いを目で見て肌で感じることができました。一番に感じたことは患者・医師・看護師・薬剤師が皆平等で、お互いに頼って助け合っていたことです。日本でも学校では皆平等だと教わるものの実際はやはり、医師の威厳が大きく看護師や薬剤師は医師にはかなわないという感じがまだまだあると思います。また、ファミリードクターという制度の為に医師と患者の距離が近く、患者はどんなことでも医師に相談し医師もどんなことでも患者に質問している様に感じました。これらの事はカナダの医療のメリットだと思いました。しかし、決して一概にこうとは言えませんが、カナダの医師で、もし休憩が15時からと決まっていれば患者さんが緊急の場合でも休憩に入ってしまうということがあるそうです。このような事は恐らく日本ではないだろうと思いました。

また、カナダの方は皆さんとても楽しそうに仕事をしておられました。日本人の真面目な性格からか日本の医師は疲れた感じがしますが、カナダの医師は笑顔でいきいきと仕事しておられて、病院の雰囲気も良いなと思いました。

また、今回ホームステイをすることで文化の違いや言語力不足を感じました。今日あったことをホストマザーに話そうと思い、事前に考えていくのですが考えていたことは言ってもその後の会話が日本語では話すことができるのに英語だとどう表現していいのか思いつかず、言いたいことが十分に伝わらないことが多々あり悲しくなりました。また、ホストマザーの言っていることがどうしてもわからず、わけもわからず yes と答えてしまう場面もありました。

夜から行われていた医療通訳入門プログラムでは、体の部位の専門的な言い方から薬の名前などテキストに載っていないことまで教えて頂きとても勉強になりました。また、ロールプレイングでは医療通訳者になり医師と患者の間に入り英語から日本語、日本語から英語に変換することによって、医療英語の大切さを学びました。

1週間というとても短い期間でしたが、日本とカナダの医療制度の違いを知ることによって日本の医療の優れている所、劣っている所を知ることができ、これまでにない充実した1週間になったと思います。この経験はこれからの学生生活を充実させる大きなバネになりました。

国際交流基金の助成により、このような貴重な機会を設けて頂いたことに大変光栄に思います。